

「これからの支援業務について」

著者	山口 康夫
雑誌名	明治大学情報科学センター年報
巻	17
ページ	19-19
発行年	2005-11-01
URL	http://hdl.handle.net/10291/4312

これからの支援業務について

和泉システム課長 山口 康夫

現在、和泉システム課で担当している支援業務は、大別すると次の4つに分かれる。①和泉AV・ITサポートサービス（業務委託＝6名）、②情報系アシスタント（実験助手補・特別嘱託職員・TA＝49名）、③AV系アシスタント（旧視聴覚教育補助業務従事者＝短期嘱託職員＝8名）、④常駐保守技能者（業務委託＝1名）となる。

業務内容は、①プレゼン環境の利用支援・教室PC（主に教卓周辺）の利用支援・学内ネットワークの接続支援等、②情報基礎教育の授業補助・メディア自習室の管理運営及び相談業務・講習会の運営補助及び講師等、③AV機器を使用する授業（主に語学系教育）の教材作成支援及び運営補助・授業で使用する機器設備の操作補助及び点検・CALL自習室の管理運営及び相談業務等、④プレゼン機器設備のトラブル対応及び点検・授業運営の補助（教材作成の補助及び編集）等である。

私が課長に就任してから足掛け3年になるが、各々の業務については、教員や学生、他部署から感謝の言葉はあっても苦情・批判めいたことはほとんどなかったように思われる。言い換えれば、当課の現在の業務体制はほぼ完璧といっても過言ではない。各メンバーのスキル・チームワークなどに加え2005年4月からメディア棟内の事務室（支援業務・スタッフの一元化）で、全ての業務を基本的に完結するスタイル（ワンストップサービス）が保たれているのが大きな要因だろう。

ただ、こういう状況であっても法人側（理事会）からは、常に経費削減・業務の一層の合理化と効率化を求められていることも現実にある。現場でいくら奮闘しようが（数字で表せない評価はあっても）費用対効果の向上を求めていくのが経営者の姿勢であろう（と言っても簡単には割り切れないが）。

そして、2005年度の理事会からの課題のひとつに情報システム事務部にかかわる業務委託の見直し大きなテーマとしてあがっている。他人事でなくわれわれ自身が、現状の業務分析を行い、今年度中にはある程度の見通しをたてた提案をしなければならない。最終的な目標は、現状と比較してドラスティックなものであっても、現実には年次計画をたて段階的に実行しないと、やらない方が良かったなんてことになってしまう可能性もある。そのためには、できうる限りの情報や意見を集約し、情報科学センタースタッフや関連する教員も含めて、叡智の結集に努めなければならない。